

# 大山崎ふるさと ガイドの会だより

発行日 令和元年 7月 10日  
 発行元 大山崎ふるさとガイドの会(OFG)  
 発行責任者 澤田 僚 一  
 連絡先 大山崎町歴史資料館内  
 TEL 075 (952) 6288, FAX 075 (952) 6289  
 URL <http://www.kyoto-ofg.org/>

## 第155号

### 天王山と共に！

#### 大山崎町経済環境課 参与 林 亨



昨年、9月4日に来襲した台風21号ではその猛威を思い知った。当日、台風が通り過ぎたのが夕刻であったので早速山の確認に行けなかった。翌日、出勤してすぐに山に向かった。あれだけの強風にさらされた天王山。ただでは済んでいないだろう。

被害状況を一刻も早く確認しなければ。役場から徒歩で観音寺に向かい登山口に差し掛かって唖然とした。聖天の稲荷神社に二抱えもある椎の木が直撃し歩みを進めようがない。枝をかいぐり、道をさらに登り旗立松手前まで至る。ここでまた目を疑った。この場所も風当たりがひどかったのか木々がなぎ倒され秀吉の陶板も閉ざされ姿がない。陶板は一部損傷している模様。鳥居をくぐり少し歩みを進める。急に空がぼっかりと空いた。十七烈士の墓が壊滅状態に見えた。恐ろしくてまともに墓の状況を確認できなかった。墓を横目で見つつ酒解神社本殿に着いた。神社は無事だった。そして神社を過ぎると無数の倒木が道を塞ぎ、山頂にたどり着いたのは聖天入り口から2時間後であった。山頂までの間、まともに歩ける道はほぼなかった。何ともひどい。それぞれの場所で被害を写真に収める。山頂を抜け、

シゲ池を越えた所でも杉、檜の原木が倒れハイキング道を完全に塞いでいた。そこをしばらく過ぎるとそれまでの被害が嘘のように日常のハイキング道の姿に。以降小倉神社までの間はまるで台風がなかったかのような風景であった。

ハイキング道を一巡して被害状況は掴めた。早々に復旧させなければ。この被害状況からして、森林整備に精通した森林組合の力を借りて復旧することにした。作業開始後見る見るうちにハイキング道は通行可能になって行き、年内には山頂まで開通。そして春の観光シーズンを迎える前の3月下旬には全線開通することができた。それに加え、倒木で大変な被害を受けた十七烈士の墓周辺も3月下旬には整備が終わり、暗かった印象から打って変わって明るい墓になった。

今回の復旧には当然プロの森林組作業班の役割は大きいものがあつた。しかしその後のOFGをはじめとするボランティアの力がなければこれだけ早く開通させることはできなかったであろう。ハイキング道開通以前、多くの方から被害状況や開通の予定の問い合わせを頂いた。それは天王山を愛して山のことを心配している現われでもあつた。

そして開通したときにはまた多くの声を聞いた。「他の山がまだ復旧していない中、早く開通させて頂いて感謝している。」と。今回の台風によって日頃は感じる事のなかった多くの人の天王山への愛を実感することができた。

これからも皆さん、天王山と共に未来へ！

#### 5月10日～7月9日までの活動実績

##### 1. 主なガイド

・5月10日(金) 長岡第四小学校	66名
・5月15日(水) 長法寺小学校	72名
・5月16日(火) 長岡第九小学校	74名
・5月17日(金) 向日市第2 向陽小学校	85名
・5月18日(土) 春の天王山ウォーキング	193名
・5月23日(木) ONCC ぶらり北摂	49名
・5月23日(木) 第二大山崎小学校	36名
・6月1日(土) 大山崎町政策総務課	24名
・6月2日(日) 円団歩こう会	99名
・6月2日(日) ボーイスカウト吹田	40名
・6月3日(月) FMおとくに出前ガイド	
・6月8日(土) 公益法人河川財団	70名
・7月5日(金) 温もり会	16名

##### 2. 会の行事など

・5月27日(月) 「あちこち学習山歩」伊賀越え	17名
・5月30日(水) 学習会「麒麟がくる」と明智光秀	37名
・6月19日(水) 鳥居前古墳現地学習会(1班担当)	39名
・6月24日(月) 「あちこち学習山歩」柳谷観音	9名

#### 活動予定

##### 主なガイド、行事予定

・7月13日(土) アウトドアOB会	3班
・7月24日(水)～25日(木) 夏休み子供歴史教室	全班
・8月5日(月) FMおとくに出前ガイド	4班
・8月17日(土) 南円明寺ヶ丘子連協「出前ガイド」	2班
・8月24日(土) 下植野南町内会「出前ガイド」	1班
・10月19日(土) 「秋の天王山ウォーキング」	全班

#### 5～6月ガイド実績

	一般ガイド		歴史資料館		おおやまざき・なび		合計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
5～6月	24件	930人	202件	466人	44件	112人	270件	1508人
令和元年度累計	36件	1202人	284件	644人	77件	187人	397件	2033人

## 春の天王山ウォーキング



5月18日(土)、昨秋は台風21号の影響で中止された登山コースも復活され、200名を超えた申込者のもと盛況に「2019春の天王山ウォーキング」が開催されました。

当日の朝は曇天で風も強い状況でしたが参加者の出足は好調で、ふるさとセンターは久しぶりに活気と緊張に満ちた場となりました。前日までの夏日とは打って変わった天候のもと、少しの不安を持っての出発となりましたが、時間が経つにつれ風も弱まり、眼下の景色も思った以上に良好で、絶好の登山日和となりました。

しかし、参加者の心を捉えたのは台風21号で薙ぎ倒

された大木と、登山道に切り置かれている太くて短い木片類でした。そして十七烈士の墓の所では、大木が途中でもぎ取られた痛々しい姿があり、それを目にした多くの人が『ワー!』と声を上げ、台風の凄まじさを実感されていました。



その後の会話は自然災害に関する事ばかりに……。参加者の一人は「登山コースは、ただ単に山に登るだけと思って参加したが、大山崎の歴史や文化財さらには自然の持つ恵みと災いを実感でき、すごく良かった」と感想を述べられておられました。

小倉神社を出た所で、試飲不可3名の方の試飲が可能との知らせがあり、歓声が上がりました。

(3班 加藤 文則 記)

## 校外学習支援 長岡第九小学校 (5/16)

まだあどけない3年生の男女74名と10名ほどの先生方を離宮八幡宮にてお迎えし、双方のご挨拶。拙句<緑さず離宮八幡無事祈る>にて吾が自己紹介を済ませ、荏胡麻の実物や二礼二拍一礼の基本を覚えて貰い、関戸明神を経ていよいよ急な坂を登り始めると、男子がしんどいと弱音を吐きましたので、女子達は我慢しているよと諭しながら、宝積寺の仁王門に到着。多羅葉がハガキの始まりなんだよと説明しました。

登山口では大きな石やでこぼこ径に足をぐねらせないよう注意。時には励まし、時には忍耐することの大切さを教えながら、8つか9つの児童達と十七烈士の墓前にて合掌。テレビやスマホが楽しめるのは彼らのお蔭と手を合わせ、気合を入れ直して山頂に到着。また一句<声すれど姿はみえず薄暑かな>。食事と休憩はたっぷり取り、頂上では各班毎に記念写真撮影。下山に際してのくどいほどの注意が奏功。全児童無事、駅まで見送りました。

(1班 吉田 陸治 記)

## 山崎合戦の地を歩く



6月1日(土)晴れのもと、大山崎町役場(阪急京都沿線観光歩き)主催の恒例【山崎合戦の地を歩く】は24名(+OFG4名)の参加がありました。2班に分かれ歴史資料館の見学から始まり出発です。離宮八幡宮などでも興味津々で説明を聞いていただき、旗立松の陶板絵図を見ながら山崎合戦の説明のあと昼食です。暑い日差しの中でも木陰はやっぱり心地よく、時折美しいウグイスの鳴き声にお客さんが「緑の中、こころ癒される」の感嘆の声!

昼食後、観音寺→夢ホテル公園→光秀本陣跡でガイド終了しビール工場前で皆様とお別れしました。

この企画に2年前にも参加し良かったので再度参加しました。子供頃より“山崎合戦”などの歴史が好きだった。古文書に興味があり今でも読んで勉強している。などの声もありました。暑い中、皆さま最後まで楽しそうにイキイキと歩いておられました。

(2班 公森 満子 記)

## 校外学習支援 第2向陽小学校 (5/17)

向日市にある小学校から恒例になっているガイド依頼があって、今回は第2向陽小学校の4年生85名を案内することになった。先生が3名で私たちふるさとガイドがそれぞれ8班に分かれて離宮八幡宮を出発。

小学生を対象にした案内でまず気をつけることは、難しい言葉を使わずにいかに大山崎を楽しんでもらうかだ。天王山をはじめかなり大山崎のことを知っている子供もいる。特に小学生の中には、歴史のことも詳しい児童もいて、秀吉のことも山崎合戦当時は羽柴だったという子もいた。

淀川や天王山は乙訓地方にとっては共通のふるさとであり将来今日の校外学習がどこかで思い出となるかもしれない。宝積寺を経て旗立松から天王山山頂に到着、昼食をとる。

登山のあとの野外での食事は美味しい。ハイキング道は今年の台風の爪痕がまだ残っていて大木が倒れたりしている。とにかくけがや事故の無いように気をつける。柳谷との分岐点からは急な下り道になり、滑らないように注意して小倉神社から阪急西山天王山駅に到着。無事に案内できて、楽しい一日でした。

(3班 蜷木 茂徳 記)

## 落中歴史ウォーキング 西高瀬川を歩く



嵐山の観光客あふれる渡月橋を起点にスタート。4月に入会した会員5名も含めて、18名の参加があり、木村さんの詳細なレジメを片手にみな興味津々。

いきなり、あの渡月橋の袂に「琴聴橋」の道標、ここが西高瀬川の取水口とのこと。角倉了以が掘削してひいた、この西高瀬川は材木運搬専門の河川で流通に大きな役割を果たし、禁門の変後の京都の復興を支えたのだそう。実際に歩いてみると、急な流れのところ、よどんでいるところ、改修されたり、暗渠になったりしているところもあった。

途中、いくつもの天皇陵や古墳、神社に立寄って、中でも住宅地のど真ん中に、突然巨大な古墳があり、中まで見せてもらい、びっくりした。私は途中でぬけて嵐電で帰ったが、河川がのっている京都の地図を買って帰り、終点までたどった。新会員の人もおしゃべりできて、とっても楽しく勉強にもなった。

(4班 守 きみよ 記)